



順位	氏名（議席）	発言の要旨
15	下田 良秀（17）	<p>1. 令和6年度全国学力・学習状況調査で小学校及び中学校の全教科の正答率が全国平均を下回った富士市の教育の課題と改善策について</p> <p>我が国で実施されている全国学力・学習状況調査（以下、「同調査」という。）は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的として行われている。</p> <p>また、その結果を学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てたり、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することが行われている。</p> <p>富士市においても同調査が行われており、同調査が生徒の学力の全てを表すものではないことは十分理解しているが、同調査の結果として富士市の小学校、中学校共に各教科の正答率が全国平均以下となっていることは大きな課題だと考えるため、以下質問する。</p> <p>(1) 同調査の過去の結果や全国その他の公表データとの比較等の分析も含め、本市の教育の課題をどう捉え、どのような改善策を行っているのか。</p> <p>(2) 学力の富士市内における地域間格差を問題視する声があるが、現状とその対策をどう考えるか。</p> <p>(3) 同調査の結果は、少子化対策や若い人口の確保を重点施策とする本市にとって、これから我が子を教育する地域を選ぶ際に、マイナスと取られる可能性があると考え。教育委員会が所管する教育だけでなく、様々な教育が注目される中、庁内での連携、官民連携等、このような状況を打破するため、どのような施策を講じていくか。</p> <p>2. この10年で新生児数の減少割合が全国平均より早く進んでいる状況にある富士市における少子化対策について</p> <p>我が国において、また富士市においても、少子化対策は非常に重要であり、様々な施策が行われている。本年度の施政方針においても、第1に少子化対策に関連する取組が示されている。また、過去に遡っても少子化対策の優先順位は高いものとなっている。</p> <p>本年2月定例会で、我が会派、心政富士が行った施政方針に対する代表質問では、市長から、富士市の少子化の現状は、全国平均よりもさらに下回っているという数字が示されたが、富士市として何か特別な理由があるのかも含めて調査したい。また、明確な目標設定により必要な行動を示すことが非常に重要であり、私も積極的に情報発信し、メッセージを伝えていくことの両方に取り組んでいくことが、チーム富士市として一丸となって取り組んでいくことにつながっていくと考えるので、前向きに検討したいという主旨の答弁をいただいている。これを踏まえ、以下質問する。</p> <p>(1) なぜ富士市の少子化が全国平均よりも早く進んでいるのかの調査の結果と分析はどうなっているのか。</p> <p>(2) 少子化対策における明確な目標設定と情報発信の現状はどうなっているのか。</p>